

1. 選んだ本の書誌情報

枝廣淳子『地元経済を作りなおすー分析・診断・対策』岩波書店 2018 年

2. 目次

まえがき

序章 なぜいま、地域経済か p1

しなやかに強い地域の鍵は、しっかりした「地域経済」

第 1 章 地域へ戻りつつある経済 p11

経済が地域へ戻っていく理由/日本の地方に特有の問題状況

第 2 章 あなたの地域は「漏れバケツ」？ P19

「漏れバケツ」モデルとは/危うい依存から自立に基づく相互依存へ

第 3 章 まずは地域経済全体の漏れの度合いを知る p35

産業連関表を用いて「波及効果」を調べる/産業連関表から「地際収支」を調べる
新登場の「地域経済分析システム」を活用する

第 4 章 地域の「どこで、どれくらい漏れているか」の詳細を知る p55

既存の統計データを活用する/地域内乗数効果を計算する方法/買い物調査を行う

第 5 章 身近な「漏れ穴」をふさぐ p67

「地産地消」から「地消地産」へ/「外に持ち出して加工して持ち込んでいるもの」に着目する/すでに存在している生産者と消費者をつなぐ

第 6 章 「最大の漏れ穴」をふさぐ p97

「植民地型」からの脱却/地域の再エネで「子どもたちが帰ってこられる」集落づくり/条例で進める地域の再エネ

第 7 章 「漏れ穴」をふさぐ新しい資本主義 p119

「地元の投資が必要な事業」と「地元で投資したい人」を結びつける/各地に広がる住民出資の取り組み

第 8 章 地域経済を考え直すー水俣市と下川町はいま p139

「環境首都」の経済再生のために/お金の流れを「見える化」する/可視化された「漏れ」から始まる創造事業/利害の対立する事業者の巻き込み方/持続するエネルギーと地域経済の土台を作る/さらに足腰の強い地域経済に

第 9 章 地域経済を取り戻すートットネスで始まる「新しい物語」 p165

トットネスの町とトランジション・タウン運動/食の「リ・ローカリゼーション」プロジェクト/エネルギーも住宅も通貨も、「リ・ローカリゼーション」/「自分たちの地域はこうありたい」というビジョンから始まる/「新しい物語」を生み出す

おわりに

3. 著者紹介

1962 年 京都府生まれ

東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了

大学院大学至善館イノベーション経営学学術院 経営(専門職)修士

イノベーション経営専攻 教授

2007 年 アル・ゴア氏の著書『不都合な真実』を翻訳

2008 年 福田・麻生内閣の「地球温暖化問題に関する懇談会」委員

2017 年 経済産業大臣主催エネルギー情勢懇談会メンバー

著書

『レジリエンスとは何か―何があっても折れないところ、暮らし、地域、社会をつくる』

東洋経済新報社 2015 年

『アニマルウェルフェアとは何か―倫理的消費と食の安全』岩波書店 2018 年

『プラスチック汚染とはなにか』岩波書店 2021 年

ほか

4. 選定理由

1. 地元経済に注目し理解する
2. 自分たちに身近な経済問題である
3. 地元経済という題材が現代の日本にとって重要な視点になると考えた
4. 地元経済の現状
5. 地元経済の変遷
6. 地元経済の問題とは何か
7. 地元経済の考え方を利用した地域の循環とは
8. お金や雇用を外部に依存しない方法とは
9. 具体的な市町村の取り組みを理解する
10. 地元経済の将来の理想形とは